

マーケットレポート

3月コア消費者物価は+3.2%の上昇

～2024年度平均は+2.7%の上昇～

◆生鮮食品を除く食料品の伸びが物価を押し上げ

18日発表の3月全国消費者物価指数(CPI)は、生鮮食品を除く総合指数(コアCPI)が前年同月比+3.2%(前月:+3.0%)で市場予想と一致しました。総合指数は同+3.6%(前月:+3.7%)でした。

品目別では、生鮮食品を除く食料は同+6.2%(前月:+5.6%)と8カ月連続で伸びが加速しました。エネルギーは同+6.6%(前月:+6.9%)でした。内訳は、電気代が同+8.7%(前月:+9.0%)、都市ガス代は同+2.0%(前月:+3.5%)と共に伸びが縮小しました。ガソリンは同+6.0%(前月:+5.8%)と伸びが拡大しました。個別項目で見ると、米類が同+92.1%(前月:+80.9%)と、20カ月連続で伸びが加速しました。このところ価格高騰が続いている生鮮野菜については、キャベツの上昇が和らいでいる一方、だいこん(同+55.7%)、ねぎ(同+49.8%)などが生産地での天候不良などの影響で値上がり率が拡大しています。

生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は同+2.9%(前月:+2.6%)と伸びが拡大しました。

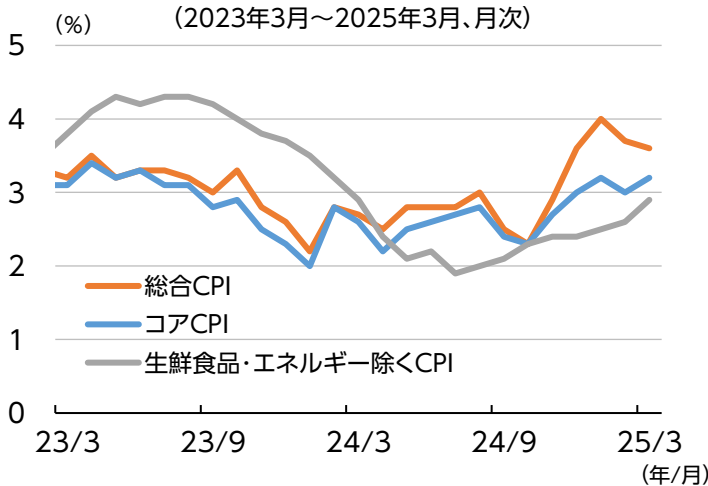
日銀が注目しているサービス価格は同+1.4%(前月:+1.3%)でした。財価格は同+5.6%(前月:+5.7%)となりました。同日公表された2024年度平均の総合指数は、前年度比+3.0%、コアCPIは同+2.7%でした。

◆今後の見通し

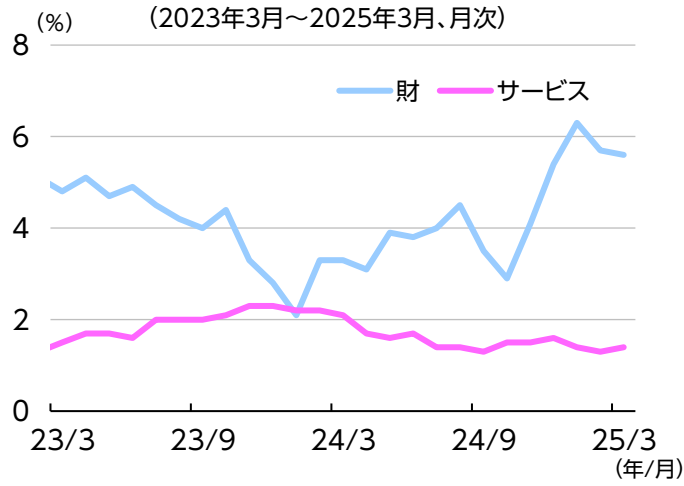
当面は、コメ価格の動向が注目になります。政府は3月に初回の備蓄米放出を終えたものの、依然としてコメ価格の高止まりが続いています。農林水産大臣は9日、備蓄米の放出を今年の夏まで毎月行うことを発表しました。備蓄米の流通によって価格が落ち着くにはもうしばらく時間がかかるとみられます。また、円高の進行や関税不安等で原油価格が下落しており、物価への影響も意識されそうです。

新年度となり商品やサービスの価格改定が活発な時期になります。帝国データバンクの主要な食品メーカー195社を対象に行った調査によると、家庭用を中心とした2025年4月の飲食料品の値上げは4,225品目で、値上げ1回あたりの平均値上げ率は月平均16%でした。大規模な値上げが行われることにより、今後、物価がどの程度押し上げられるのかも関心が集まりそうです。

CPIの推移(前年同月比)



CPI 財とサービスの推移(前年同月比)



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。